

平成21年度のごみ・資源物の処理の流れと処理費用

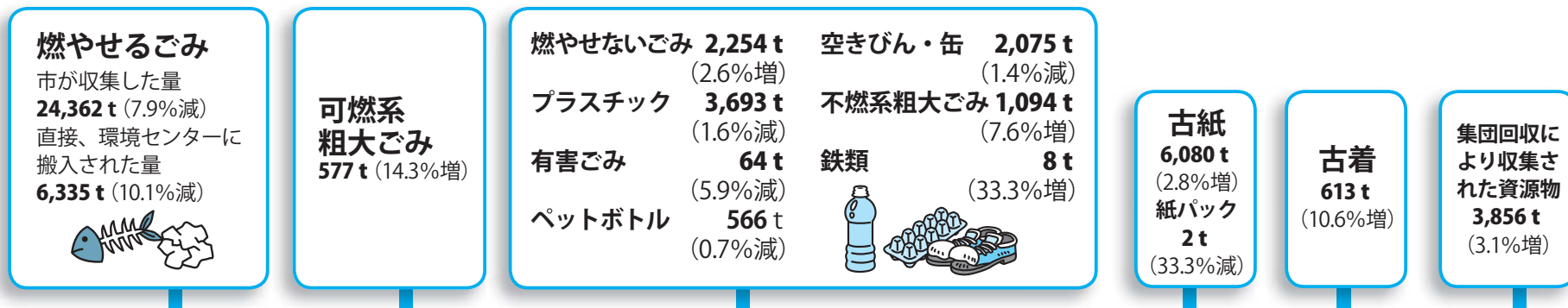


総ごみ量
51,579t(4.4%減)
ごみ処理経費
約37億4,200万円

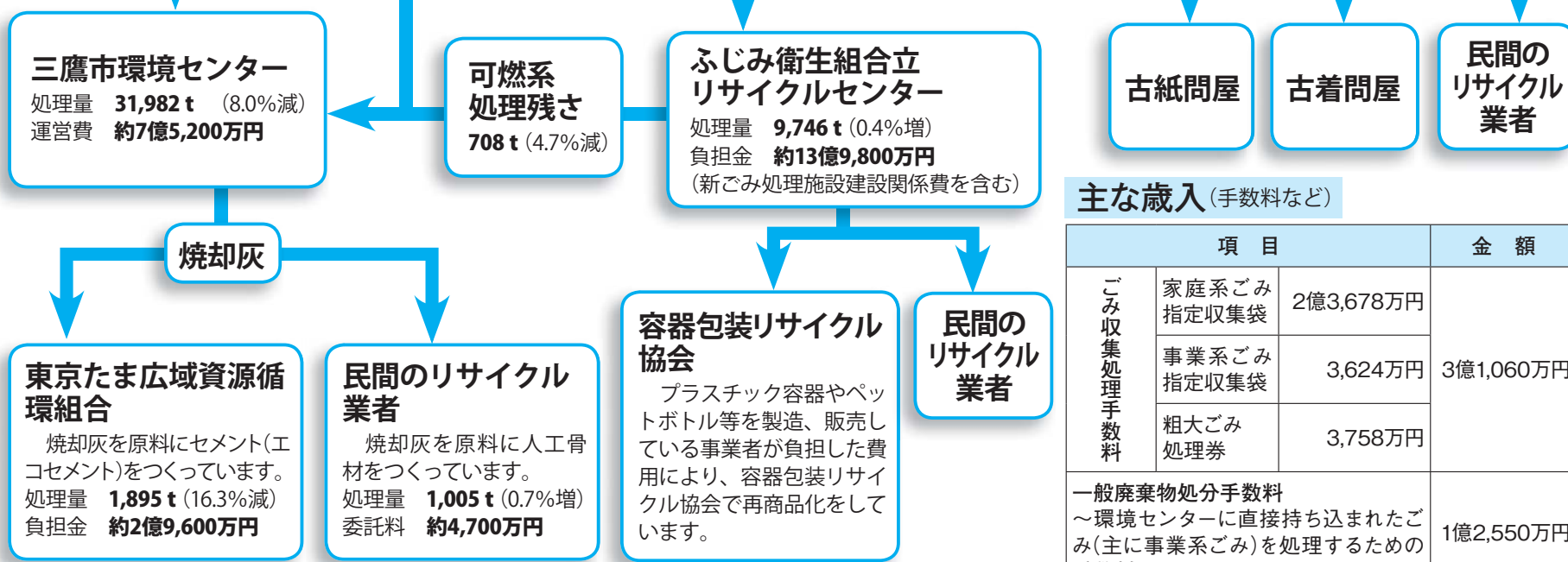


1世帯あたりのごみ量
589kg(5.2%減)
ごみ処理経費
42,800円/世帯

()内は平成20年度比



ごみ・資源物の収集・運搬業務委託費 約9億1,300万円



主な歳入(手数料など)

項目		金額
ごみ収集処理手数料	家庭系ごみ指定収集袋	2億3,678万円
	事業系ごみ指定収集袋	3,624万円
	粗大ごみ処理券	3,758万円
一般廃棄物処分手数料 ～環境センターに直接持ち込まれたごみ(主に事業系ごみ)を処理するための手数料		1億2,550万円
一般廃棄物処理業許可申請手数料 ～市内で一般廃棄物の処理を行う許可を受けるために必要な手数料		19万円
家庭系ごみ指定収集袋広告掲載料収入		161万円
古紙類売却代金収入		2,260万円
ふじみ衛生組合からの受託事業収入 ～リサイクルセンターで選別された燃やせるごみを環境センターで処理することによる収入		5,543万円
調布市からの受託事業収入 ～広域支援により調布市の燃やせるごみを受け入れたことによる収入		1億5,531万円
小金井市からの受託事業収入 ～広域支援により小金井市の燃やせるごみを受け入れたことによる収入		3,315万円
ごみ減量啓発品販売収入 ～市のイベントでマイバッグ等の啓発品を販売したことによる収入		13万円
高齢社会対策区市町村包括補助金 ～ごみ出しをすることが困難な高齢者や障がい者の方に、ごみ出しの支援を行う事業に対して支払われる補助金		366万円
緊急雇用創出事業臨時特例補助金 ～不況のため離職を余儀なくされた方を対象に、臨時的な雇用機会の提供を行ったことに対して支払われる補助金		1,628万円
その他(地球温暖化対策補助金等)		178万円
合計		7億2,624万円

ごみ発生抑制の費用 約3億3,600万円

リサイクルカレンダーの作成、ゴミゼロキャンペーン等、ごみ減量・資源化を推進するための費用

家庭用生ごみ処理装置等購入費助成金
申請件数 179件(101.1%増)
助成金額 約289万円
(環境基金より支出)

集団回収事業等補助金
収集量 3,856 t (3.1%増)
助成金額 約4,339万円
(一部、環境基金より支出)

家庭系ごみの有料化後、よくいただく質問

Q 剪定枝はどのように出せばいいでしょうか？

A 1本の木の太さを5cm以下、長さを80cm以下にし、ひもでしばって直径50cm以下の束にして、「燃やせるごみの日」に出してください。1回に出せる量は3束までです。指定収集袋は必要ありません。

業者の方に剪定を依頼した場合は、処理も含めて業務の一環となりますので、市では収集できません。業者の方に処理を依頼してください。

Q 木の板は無料で出せますか？

A 木の板は、既に製品となっているため、指定収集袋を使用してください。出し方は1枚を長さ80cm、幅30cm、厚さ3cm以下にし、5枚まではS袋(10ℓ)1枚、6～10枚まではM袋(20ℓ)1枚を貼り付けて、「燃やせるごみの日」に出してください。

Q 指定収集袋に入らない長い傘は粗大ごみですか？

A 傘、バット、ゴルフクラブ、木の棒等の長いもの(1m程度まで)は、5本まではミニ袋(5ℓ)1枚、6～10本まではS袋(10ℓ)1枚に入れて、各々、決められた日に出してください。先が袋から出ていても構いません。外側に袋を貼り付けても結構です。

